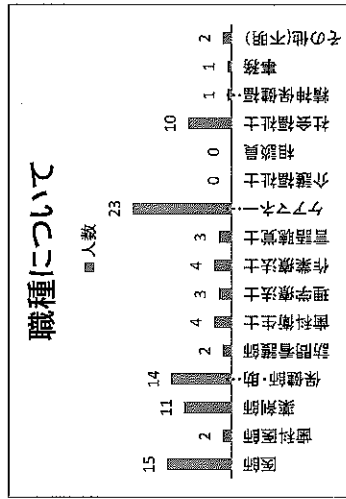
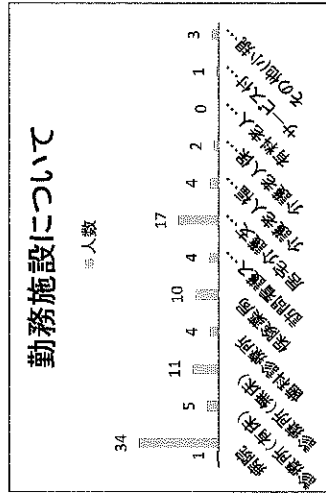


第2回 退院調整・地域連携打ち合わせ アンケート結果

| 問1 職種について | 人数 |
|---------------|----|
| 1 医師 | 15 |
| 2 歯科医師 | 2 |
| 3 薬剤師 | 11 |
| 4 保健師・助産師・看護師 | 14 |
| 5 訪問看護師 | 2 |
| 6 歯科衛生士 | 4 |
| 7 理学療法士 | 3 |
| 8 作業療法士 | 4 |
| 9 言語聴覚士 | 3 |
| 10 ケアマネージャー | 23 |
| 11 介護福祉士 | 0 |
| 12 相談員 | 0 |
| 13 社会福祉士 | 10 |
| 14 精神保健福祉士 | 1 |
| 15 事務 | 1 |
| 16 その他(不明) | 2 |



| 問2 勤務施設について | 人数 |
|-----------------|----|
| 1 病院 | 34 |
| 2 診療所(有床) | 5 |
| 3 診療所(無床) | 11 |
| 4 歯科診療所 | 4 |
| 5 保険薬局 | 10 |
| 6 訪問看護ステーション | 4 |
| 7 居宅介護支援事業所 | 17 |
| 8 介護老人福祉施設 | 4 |
| 9 介護老人保健施設 | 2 |
| 10 有料老人ホーム | 0 |
| 11 サービス付き高齢向け住宅 | 1 |
| 12 その他(小規模多機能2) | 3 |
| | |
| | |
| | |
| | |



問3 事例検討について

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------|----|
| ◎参考・勉強になった | |
| ・気づきやおせっかいの重要性。自分たちの取り組みが地域包括ケアにつながってくる等、勉強になった。 | 14 |
| ・現場の状態がよく分かり、参考になった。 | 7 |
| ・一歩踏み込んだ支援、ききとり(おせっかい)の大切さが分かった。今後活かしたい。 | 5 |
| ・地域包括センターや地域との関わりが重要だと思った。 | 4 |
| ・地域ケア等、色々な支援を有効に活用したい。 | 3 |
| ・拒否をされれば、本人の意思を尊重と考えていたが、もっと時間をかけた関係性の構築を行っていかなければならない事が分かった。 | 2 |
| ・本人家族の拒否がある場合、とても難しいとあらためて思った。 | 2 |
| ・実際あった事例に、より一層考えさせられた。 | 2 |
| ・日々の生活の中で、気づき、おせっかいを実行し、今後の仕事に活かしたい。 | |
| ・介護におせっかい、事前予測準備が大切な行動だと感じた。 | |
| ・相談者、協力者の存在が重要であることを実感した。 | |
| ・早期から、その人の生活を見据えた支援を地域全体で考えていく会議の仕組みがある事を知り参考になった。 | |
| ・自分の立場(職種)で何かできるか考えさせられた。 | |
| ・薬局としては、優先度が低く、なかなか初期から関われないが、今回のケース(内服が出来ていないという点)では、「早い段階で関係性が気づけていたのでは。」と思った。 | |
| ・本人の意識の変化をどのように誘導してゆくかが非常に難しい事が分かった。 | |
| ・困難事例を振り返る事で、今後の対応の参考になった。 | |
| ・どういう生活をしている人なのかを意識して支援を考えたい。 | |
| ・この事例を参考に、暮らしを見据えたアセスメントができるよう教育すれば良い事が分かった。 | |
| ・院内事例だけでなく、地域事例も参考になる。 | |
| ・人との関わりがベースにないと、制度だけの解決は無理だと分かった。 | |
| ・今まで関わったケース、現在関わっているケースを「一つ一つ大事に検討していかなければ。」と反省した。 | |
| ・三宅先生の患者に向き合う姿勢、思い、自己決定に対しての考えがとても参考になった。 | |
| ・「備え方の支援」ができるよう会話を大切にしていきたいと思った。 | |
| ・本人の「自立」に目を向ける、当たり前の事が忘れがちになっている、周囲が納得するのではなく、本人が納得できる支援に努めたい。 | |
| ◎要望・疑問等 | |
| ・詳細をレジメに従って、簡潔明瞭に提示してほしい。 | |
| ・ケアカンファレンスと地域ケア小会議との相違は、後者より大規模なものと解釈してよいか？ | |
| ・キーパーソンを最初から決めていたのか？ | |
| ・個人の尊厳と介入拒否のジレンマがある。 | |
| ・総合、統括するシステムと最後瀬金者をどうすべきか？ | |
| ・発表しにくい環境。事前に事例について各職種から意見を取りまとめ、当日に協議できればよいのでは。 | |
| ・一歩踏み入れる大切さ、実際は、難しいのが事実、その様々な方法について具体的に話があればよかったのでは。 | |
| ・地域連携に、もっと薬局をからめて頂きたい。 | |
| ・在宅訪問時に、薬剤師目線からポリファーマシーを疑うが、他職(栄養士・ケアマネ等)の方に、疑問にもたれる事が多い。もっと、コミュニケーションが取れればいいが。 | |
| ・個人情報をごこまで伝えていいのか分からない。 | |
| ・今後、高齢者、障害者のあらゆるライフステージでの口腔ケアの重要性をアピールする必要があると思う。 | |
| ・事例は参考になったが、口腔内の状況が触れられてない事が残念。 | |
| ◎その他 | |
| ・歯科との関わりが、まだまだない現状を感じた。 | |
| ・三宅先生の最後言葉が身にしみた。 | |
| ・本人の「自立」に目を向ける、当たり前の事が忘れがちになっている、周囲が納得するのではなく、本人が納得できる支援に努めたい。 | |

問4 講演・意見交換について

| | |
|--------------------------------------------------------|---|
| ◎参考になった等 | |
| ・厚労省の方々の考えや行政としての視点を知る事ができた。 | 6 |
| ・現在の地域包括ケアの現状、これからの事が分かった。実践に役立てたい。 | 4 |
| ・地域づくりについての話が大変参考になった。 | 4 |
| ・柏市等、他地域の在宅医療、介護多職種連携を知る事ができ参考になった。 | 4 |
| ・高齢者だけでなく、弱者(子供・障害者)等、大きな視野でより良い社会作りに協力できるようスキルアップしたい。 | 4 |
| ・地域住民主体の知育づくり、支え合いが重要だと思った。 | 2 |
| ・今後、色々な人達と意見共有や困難事例について考えながら、高松市、更に細かい地域で実行していきたい。 | 2 |
| ・別冊付録が、今後の役に立つ。 | 2 |
| ・具体的、身近な資料を挙げての講演で、説得力があり分かりやすかった。 | 2 |
| ・数値も挙げられ、分かりやすかった。 | |
| ・多様な問題を抱えて、どのように進んでゆくか、一応理解を得られた。 | |
| ・地域の福祉ネットワークとして役立てたい。 | |
| ・重要な道筋等考えさせられた。 | |
| ・在宅医療の観点から、老人、子育て世代の話を伺えて良かった。 | |
| ・世帯問題を立体的に見ていく、中央ケア会議という事を知り、新しい視点を学ぶことができた。 | |
| ・どういう暮らしをしている人なのかという事を意識して支援を考えていきたい。 | |
| ・カンファレンスも参考になった。 | |
| ・高松市は、「地域包括ケア・地域共生社会」をどう具体化しようとしているのか、今一つ見えない事を逆に実感した。 | |
| ・国の今後目論む「地域共生社会」の基本コンセプトが分かった。 | |
| ・その分野での包括が必要と思った。 | |
| ◎疑問・要望等 | |
| ・現状の分析・統計は十分わかるが、問題点をいかに解決に向かって具体的な策を提示してほしい。 | |
| ・要キーワードとその内容を簡潔明瞭に述べてほしい。 | |
| ・多世代の拠点を中心に、それぞれの専門性を高めれば。 | |
| ・「地域づくり」に、国・厚労省はどこまで介入するか？出来るのか？疑問。 | |
| ・国の描くものは分かるが、実際、個々は、ギリギリの生活に追い込まれている。国と自治体は責任を持つべき。 | |
| ・ケアマネ、介護福祉士、社会福祉士の必要性を唱える講演をしていただけたら、医療と介護が歩み寄れるのでは | |
| ・今後、多職種、地域ケアの方向に大きく期待している。 | |
| ・今回のように、情報提供していく場が必要かと思った。 | |
| ・今後、ケアマネージャーの研修にも来てほしい。 | |
| ・地域の取組には賛同できるが、「第3のコミュニティ」とは、企業の事業なのか？ | |
| ◎その他、意見等 | |
| ・法律には、かなりの拘束があり、その通りにはいかない可能性がある。やはり、個人の意識が大切。国には頼れない。 | |
| ・高松市にも、先進地域のシステムが構築されようとしているので、未熟だが関わられるようになりたい。 | |
| ・医療・介護の違った分野がうまく結び付き、生活者が住みやすく、生活しやすい状況になる事を願っている。 | |
| ・人材確保が課題では。 | |
| ・医療・福祉の考え方が、より現場よりになってきている。今後に期待したい。 | |

問5 「退院調整・地域連携打合せ会」全般について

| | |
|-------------------------------------------------------|---|
| ◎大変参考になった。 | |
| ・今後も参加したい。 | 3 |
| ・事例検討は、大変参考になった。 | 3 |
| ・1回目、2回目とも、事例検討が大変参考になった。 | 2 |
| ・ネットワークの重要性を改めて考えさせられた。 | |
| ・事例検討については、事前のFAXのお陰で、理解が深まった。 | |
| ・内容の濃い話が聞けて良かった。 | |
| ・多職種が集まる会が少ないので、今回のような会はありがたい。 | |
| ・情報収集や知識の増幅を行う事ができる会だった。 | |
| ◎要望等 | |
| 「開催について」 | |
| ・平日の夜にしてほしい。 | |
| ・今後も継続して行う事で、多くの地域の方が地域包括連携を支援できるようになればと思う。 | |
| ・是非、次回からも参加したい。居支事業所にも知らせしてほしい。 | |
| ・資料が多く、メモが取りづらい。会場をテーブル付にしてほしい。 | |
| ・長時間で、椅子が小さく、腰に負担がかかる。 | |
| 「内容について」 | |
| ・今後も困難事例を紹介してほしい。 | 3 |
| ・事例検討をもっと聞きたい。 | |
| ・多くの事例を用いてほしい。 | |
| ・各職種内でも出前講義等行っていけるとよいのでは。 | |
| ・グループワーク等を取り入れて、参加者の発言の場を設けてほしい。 | |
| ・講習形式の方が顔が見えてよいのでは。 | |
| ・「打ち合わせ会」よりも「ケアカンファレンス」の開催を頻繁に行ってはどうか？その際、情報提供から始めては。 | |
| ・地域の問題等の事例を紹介、検討してほしい。 | |
| ◎その他 | |
| ・退院時、入院時の薬局との服薬についての連携をもっと気軽にあたりまえに行えるようにしたい。 | |
| ・シームレス研究会や他会議がそれぞれにいくつもあり、残念ながら、すべてに参加できない。 | |
| | |
| | |
| | |

問6 個別面談を利用された方へ

- ・施設紹介の場、プレゼン等がないと個別面談しにくいのでは。
- ・参加施設の表や名札がないと、どこの誰か？分かりにくいのでは。